



小學  
 科用

日本文典

春山弟彦著

卷之二下

卷之二下目錄

動詞 <small>右一</small>	動詞種類 <small>左一</small>	變畫 <small>左十六</small>	法 <small>右三十二</small>	集合動詞 <small>左三十八</small>	他詞 <small>右三十三</small>	他詞 <small>右三十三</small>	副詞 <small>右四十</small>	本來ノ詞 <small>右三十九</small>	後置詞 <small>右四十六</small>	詞尾ノ變畫 <small>右四十一</small>	他詞 <small>右三十三</small>	集合シテ <small>左四十三</small>	品類 <small>左四十四</small>	後置詞 <small>右四十六</small>	第一種 <small>左四十六</small>	第二種 <small>右四十九</small>	第三種 <small>右五十</small>	接續詞 <small>右五十一</small>	感詞 <small>右五十六</small>
----------------------	------------------------	-----------------------	-----------------------	--------------------------	------------------------	------------------------	-----------------------	--------------------------	-------------------------	---------------------------	------------------------	--------------------------	------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	------------------------	-------------------------	------------------------

ホ 2  
 4672  
 2





門 ホ 2  
號 4672  
卷 2

藏書

小學  
用日本文典卷之二下

動詞

姫路

春山弟彦

著

藏書

動詞

問 動詞とは

答 事物に就きて百般の状態動作を言ふむと云る

時を用る貴重の要詞にして毎文かきらば闕く

可からざる者あり故に之を闕く時は全き文

章をかきざるを以て意義を通曉する能けを今

動詞を説く種類變畫法時の數部に分つ又助

動詞なりて其活用を助をく其他集合動詞なり



他詞より轉ト来至て動詞とちる者有り

動詞の種類とは

問 他動受動自動の三種とを又其形を變ぜざして

自他兩般に通ざる動詞有りことを通動と名づ

く

他動詞とは

問 文主の業作とく他の物品と及達する作用を

与はる者よりして一個の物品を缺く時は意義を

解し難き詞有りことを本来の者と助動詞と結

合して自動詞より轉ト来る者と活用を變トて

自動詞より轉ト来る者との三種あり

問 第一種の者は

答 本来のちり多ちを以て他動の作用を与らばる

者なり 教師が生徒を教ふ 學生が書をよむ

と言へる文に於て 教む 讀む等の詞

あり

問 第二種の者は

答 もとは自己の動作をのみ与らばることを得て

其動力の他の物品と及達すること能はざる詞

が助動詞と結合して其助力をも至て他動の業

作を与らばる者なりことを甲乙丙丁戊の五法

有り







問

乙法の者は

甲法の者と活といへる助動詞と結合する者

「ス用を異るを」

「りこまけサ行下二段活用の助動詞よりて其

自動詞と結合するは四段活用の動詞の「ア列の

音より受くるをり他動表の

他動表乙

詞サ行四段活用の者	さく 咲	ゆく 往	自動詞	詞カ行四段活用の者	詞タ行四段活用の者	詞マ行四段活用の者
詞ハ行四段活用の者	さかき	ゆかき	助動詞との者	詞タ行四段活用の者	詞カ行四段活用の者	詞マ行四段活用の者
詞ラ行四段活用の者	さつ 立	かつ 勝	自動詞	詞タ行四段活用の者	詞カ行四段活用の者	詞マ行四段活用の者
詞ハ行四段活用の者	あふ 戦	あかき	助動詞との者	詞タ行四段活用の者	詞カ行四段活用の者	詞マ行四段活用の者
詞ラ行四段活用の者	あふ 戦	あかき	助動詞との者	詞タ行四段活用の者	詞カ行四段活用の者	詞マ行四段活用の者
詞ラ行四段活用の者	あふ 戦	あかき	助動詞との者	詞タ行四段活用の者	詞カ行四段活用の者	詞マ行四段活用の者
詞ラ行四段活用の者	あふ 戦	あかき	助動詞との者	詞タ行四段活用の者	詞カ行四段活用の者	詞マ行四段活用の者
詞ラ行四段活用の者	あふ 戦	あかき	助動詞との者	詞タ行四段活用の者	詞カ行四段活用の者	詞マ行四段活用の者

問

丙法の者は

「サ」といへる助動詞と結合する者なりこまけは

前問の「ス」活用の者といへる助動詞より「サ」の字

を加へる者より「サ」行下二段活用の詞よりて

自動詞の後に加へて他動を「ら」はる者なりこ

まを二法に分つ

其一は

中二段活用の自動詞の詞尾を「イ」列の音より取り

自動詞	ふた 伏	自動詞	助動詞との者
自動詞	ふた 伏	自動詞	助動詞との者
自動詞	ふた 伏	自動詞	助動詞との者
自動詞	ふた 伏	自動詞	助動詞との者
自動詞	ふた 伏	自動詞	助動詞との者
自動詞	ふた 伏	自動詞	助動詞との者
自動詞	ふた 伏	自動詞	助動詞との者
自動詞	ふた 伏	自動詞	助動詞との者

日本文典 卷二下



サスの助動詞を加ふる者より他動表の丙をみ  
 其二は  
 下二段活用の自動詞の詞尾を『工列の音』取り  
 サスの助動詞を加ふる者より他動表の丙をみ

他動表 丙

カ行より轉ぶる者	ア行より轉ぶる者	イ	中二段活用の助動詞と結合して他動詞と	下二段活用の助動詞と結合して他動詞と
おく	起	おきさせ	うく	受
			う	得
				えさせ
				うきさせ

問  
 丁法の者は  
 セサスといへる助動詞と結合する者より

カ行より轉ぶる者	イ	中二段活用の助動詞と結合して他動詞と	下二段活用の助動詞と結合して他動詞と
おろ	下	おろさせ	おろさせ
くち	悔	くちさせ	くちさせ
ほころぶ	綻	ほころびさせ	ほころびさせ
はむ	浴	はませ	はませ
はづ	耻	はづさせ	はづさせ
つかぬ	束	つかぬ	つかぬ
ふ	伏	ふさせ	ふさせ
た	建	たさせ	たさせ
きよむ	清	きよませ	きよませ
植		うきさせ	うきさせ



はスヒスルスレとサ行下二段活用なる助動詞とサスサセサスルサスレとサ行下二段活用なる助動詞とを重ねたる集合の助動詞なり其本詞と結合する者は四段活用の自動詞の詞尾をア列の音より取りセサスの助動詞を加ふる者なり他動表の丁をミと

他動表丁

四段活用の自動詞本来の形	結合して他動詞となりたる形	四段活用の自動詞本来の形	結合して他動詞となりたる形
まきく	まきかきささむ	まむ	まますせささむ
いふ	いはせささむ	いほふ	いはほせささむ
知る	をしらせささむ	くふ	くはせささむ

問答

戊法の者はシムといへる助動詞と結合する者なりこまはシムとシムルシムレとマ行下二段活用なる助動詞より其自動詞と結合するは四段活用の動詞のア列の音より受くるなり他動表の戊をミと

他動表戊

カ行活用の詞	自動詞	助動詞との結合	ハ行活用の詞	自動詞	助動詞との結合
ゆく	往	ゆかむ	いふ	合	いはむ

はる	馳	はらせささむ	とろ	取	とろらせささむ
----	---	--------	----	---	---------



とり受 る者	サ行活 用の詞	とり受 る者	マ行活 用の詞	とり受 る者	トリ受 る者
さく	ふた	孫ざた	たむ	たむ	たむ
咲	伏	根サス	住	進	戦
さかむ	ふさむ	孫ざむ	たむ	たむ	たむ
さかむ	ふさむ	孫ざむ	たむ	たむ	たむ
とり受 る者	マ行活 用の詞	とり受 る者	トリ受 る者	トリ受 る者	トリ受 る者
か	は	たむ	たむ	たむ	たむ
勝	走	住	進	進	進
かむ	はむ	たむ	たむ	たむ	たむ
かむ	はむ	たむ	たむ	たむ	たむ
とり受 る者	トリ受 る者	とり受 る者	トリ受 る者	トリ受 る者	トリ受 る者
た	た	た	た	た	た
立	立	立	立	立	立
たつ	たつ	たつ	たつ	たつ	たつ
たつ	たつ	たつ	たつ	たつ	たつ

問 活用に變ドて自動詞より轉ト來る者は  
 答 四段活用の自動詞を同行の下二段活用に變ド  
 て他動をたらははき者をり他動表の己をみよ

他動表 己

カ行 活用の 者	サ行 活用の 者	タ行 活用の 者	ヘ行 活用の 者	カ行 活用の 者	サ行 活用の 者
ま	ふ	た	た	た	た
退	伏	進	違	進	進
ま	ふ	た	た	た	た
ま	ふ	た	た	た	た
カ行 活用の 者	サ行 活用の 者	タ行 活用の 者	ヘ行 活用の 者	カ行 活用の 者	サ行 活用の 者
ま	ふ	た	た	た	た
退	伏	進	違	進	進
ま	ふ	た	た	た	た
ま	ふ	た	た	た	た

問 受動詞とは  
 答 文主かへりて他の人物の作動を受くる時其作



用の状態を知らせる詞として動詞が「ル」「ラ」「サ」  
 「ルセ」「ラセ」「サセ」等の助動詞と結合して「る」「ら」「さ」  
 者なり

問  
 ルの助動詞と結合する者は

答  
 四段活用の動詞として詞尾を「ア」列の音を取  
 此の「ル」「レ」「ル」「レ」と「ラ」行下二段に活用する助  
 動詞を加へて受動を知らせる者なり受動表の  
 甲をみよ

受動表 甲

カ行四 段活の	本来の形	結合の形	ハ行四 段活の	本来の形	結合の形
かぶく 招	かぶかる	かぶかる	やぶく 養	やぶかる	やぶかる

動詞と 結合する者	はぶく 省	けぶかる	動詞と 結合する者	さうぶ 誘	さうはる
サ行四 段活の	めさく 召	めさかる	マ行四 段活の	うつくむ 愛	うつくる
動詞と 結合する者	ころむ 殺	ころまる	動詞と 結合する者	うらむ 羨	うらまる
タ行四 段活の	もどむ 戻	もどまる	動詞と 結合する者	うらやむ 羨	うらやまる
タ行四 段活の	あむつ 保	あむとる			
動詞と 結合する者	はちつ 放	はちまる			
動詞と 結合する者	うつつ 撃	うちまる			

問  
 ラルの助動詞と結合する者は

答  
 中二段活用の動詞として詞尾を「イ」列の音を取







ア行 り轉 る者	うらむ 恨	うらみらる	うらむ 集	うらめらる
ヤ行 り轉 る者	むくゆ 報	むくいらる	うづむ 埋	うづめらる
ワ行 り轉 る者			うづむ 植	うづめらる
了者				

問 此の助動詞と結合する者は  
答 此詞は元來サシスセ為とサ行四段一活用を  
助動詞とルレルレ得とラ行下二段一活用  
を助動詞とを置きぬる集合の助動詞をり

問 其本詞と結合するものは各種の活用一從ひて受  
くろ音を異し一甲乙丙の三法とを  
答 甲法は  
四段活用の動詞と結合する者こそは詞尾  
をア列の音一取リサルの助動詞を加へて受動  
を丙法はを者より受動表の丙をみよ

問 乙法は  
答 中二段活用の動詞と結合する者よりこそは詞  
尾をオ列の音一取リサルの助動詞を加へて受  
動を丙法はを者より受動表の丙をみよ

問 丙法は  
答 丙法は



答 下二段活用の動詞と結合をる者ときこきは詞尾をア列の音より轉じてサルの助動詞を加へ受動をあらははる者ときり受動表の丙をみる

受動表 丙

カ行より轉じり者	カ行と	四段活用の詞ア列の音より受くる者	中二段活用の詞オ列の音より受くる者	下二段活用の詞ア列の音より受くる者
ルつ	ルつ 持	本来の形結合の形	本来の形	本来の形結合の形
ルあさる	ルあさる	かこさる	かこさる	かこさる
おつ	おつ 落	おく	おく	おく
おあさる	おあさる	おこさる	おこさる	おこさる
おつ	おつ 怖	おく	おく	おく
おあさる	おあさる	おこさる	おこさる	おこさる
おつ	おつ 延	おく	おく	おく
おあさる	おあさる	おこさる	おこさる	おこさる

カ行より轉じり者	カ行と	四段活用の詞ア列の音より受くる者	中二段活用の詞オ列の音より受くる者	下二段活用の詞ア列の音より受くる者
ルつ	ルつ 持	本来の形結合の形	本来の形	本来の形結合の形
ルあさる	ルあさる	かこさる	かこさる	かこさる
おつ	おつ 落	おく	おく	おく
おあさる	おあさる	おこさる	おこさる	おこさる
おつ	おつ 怖	おく	おく	おく
おあさる	おあさる	おこさる	おこさる	おこさる
おつ	おつ 延	おく	おく	おく
おあさる	おあさる	おこさる	おこさる	おこさる

問 セラルの助動詞と結合をる者は  
 答 こきは元來スヒスルスレ為とサ行下二段活用をる助動詞とラルレラル、ラルレ得と行下二段活用をる助動詞とを疊ねる集合



の助動詞よりして四段活用の動詞の詞尾をア列の音より取置てセラルの助動詞を加へ受動をいらはを者なり受動表の丁をみと

問 併セラルの助動詞と結合する者は

答 こまけ元來サシスセ 為とサ行四段一活用する

助動詞とスセスルスレ 為とサ行下二段一活用

する助動詞とラルラレラル、ラレレとラ行下

二段一活用する助動詞と三詞を疊ねるる集合

の助動詞より其本詞と結合をなすは各種の活

用より従ひて甲乙の二法に分つ

問 甲法は

答 中二段活用の動詞の詞尾をイ列の音より取置て

併セラルの助動詞を加へ受動をいらはを者なり

受動表の丁をみと

問 乙法は

答 下二段活用の動詞の詞尾をエ列の音より取置て

セラルの助動詞を加へて受動をいらはを者なり

受動表の丁をみと

受動表 丁

四段活用の詞	中二段活用の	下二段活用の
ア列の音より	詞イ列の音より	詞エ列の音より
受くる者	り受くる者	り受くる者
本来の形	結合の形	本来の形
結合の形	本来の形	結合の形
結合の形	本来の形	結合の形



ア行よ り轉ぢ る者	カ行よ り轉ぢ る者	サ行よ り轉ぢ る者	タ行よ り轉ぢ る者	ナ行よ り轉ぢ る者	ハ行よ り轉ぢ る者
く	かく	きく	か	か	く
	書	聞	貸	勝	謀
	かせらる	きかせらる	かせせらる	かかせらる	くあせらる
	おく	つく	お	お	あ
	起	盡	落	落	強
	おきせらる	つきせらる	おちせらる	おちせらる	あひせらる
う	うく	つく	は	は	あ
得	受	舉	載	馳	捨
えきせらる	うけせらる	たげせらる	のせせらる	はせせらる	たてせせらる

マ行よ り轉ぢ る者	ヤ行よ り轉ぢ る者	ラ行よ り轉ぢ る者	ワ行よ り轉ぢ る者	ハ行よ り轉ぢ る者	ヘ行よ り轉ぢ る者
くむ	くむ	くむ	くむ	くむ	くむ
汲	合	生	賣	織	居
くあせらる	くあせらる	くあせらる	くあせらる	くあせらる	くあせらる
くむ	くむ	くむ	くむ	くむ	くむ
恨	媚	老	降下	越	覺
くあせらる	くあせらる	くあせらる	くあせらる	くあせらる	くあせらる
くむ	くむ	くむ	くむ	くむ	くむ
改	替	嘗	越	覺	居
くあせらる	くあせらる	くあせらる	くあせらる	くあせらる	くあせらる

十三



問 自動詞とは

答 文主の自から作動をきして其動力の他の事物  
に及達せむ自己の身上にのみあらはるゝ百般  
の状態業作をきし示めを詞をりこき本來の  
者と助動詞と結合して他動詞より轉り來る者  
と活用を變じて他動詞より轉り來る者との三  
種あり

問 第一種の者は

答 本來のきり多ちのきよきて自動の作用をあら  
はむ者としてつちかふ培うをつく巻等よ於て  
は其業作をあらはしお多なる固やはらく和等

よ於ては其性質をあらはしたる立をまゝ居  
等よ於ては其状態をあらはせる者をきり

問 第二種の者は

答 他動詞がル得四段活ありひはル得下二段活と  
つへる助動詞と結合して自動をあらはせる者を  
り

問 ル四段活の助動詞と結合する者は

答 こきはラリルレとラ行四段一活用をる助動詞  
よして其他動詞と結合して自動をあらはせる者  
甲乙の二法あり

問 甲法の者は

答 甲法の者は



答 四段活用の他動詞の詞尾をア列の音1取アルの助動詞を加ふる者たり。志かまどもこの詞は甚ど稀として多シカ行の活用1のみあるなり。志きはちふさぐ塞をふさがるゝ作りはぶく省をはぶかるゝ作るが如きこと走たり。

問 乙法の者は

答 下二段活用の他動詞の詞尾をア列の音1轉トルの助動詞を加ふる者たり。自動表の甲をみ

自動表 甲

カ行ト リ轉ビ る者	カ行ト リ轉ビ る者	カ行ト リ轉ビ る者	カ行ト リ轉ビ る者	カ行ト リ轉ビ る者	カ行ト リ轉ビ る者	下二段活用の 他動詞本来の 一で自動詞と 形	下二段活用の 他動詞と結合 一で自動詞と 形
あむく	あむく	あむく	あむく	あむく	あむく	あむく	あむく
助	懸	中	捨	重	列	助	懸
あむかる	あむかる	あむかる	あむかる	あむかる	あむかる	あむかる	あむかる
ハ行ト リ轉ビ る者	ハ行ト リ轉ビ る者	ハ行ト リ轉ビ る者	ハ行ト リ轉ビ る者	ハ行ト リ轉ビ る者	ハ行ト リ轉ビ る者	下二段活用の 他動詞本来の 一で自動詞と 形	下二段活用の 他動詞と結合 一で自動詞と 形
くはふ	くはふ	くはふ	くはふ	くはふ	くはふ	くはふ	くはふ
加	換	集	治	居		加	換
くはふる	くはふる	くはふる	くはふる	くはふる	くはふる	くはふる	くはふる
マ行ト リ轉ビ る者	マ行ト リ轉ビ る者	マ行ト リ轉ビ る者	マ行ト リ轉ビ る者	マ行ト リ轉ビ る者	マ行ト リ轉ビ る者	下二段活用の 他動詞本来の 一で自動詞と 形	下二段活用の 他動詞と結合 一で自動詞と 形
あつむ	あつむ	あつむ	あつむ	あつむ	あつむ	あつむ	あつむ
集	治	居				集	治
あつまる	あつまる	あつまる	あつまる	あつまる	あつまる	あつまる	あつまる
ワ行ト リ轉ビ る者	ワ行ト リ轉ビ る者	ワ行ト リ轉ビ る者	ワ行ト リ轉ビ る者	ワ行ト リ轉ビ る者	ワ行ト リ轉ビ る者	下二段活用の 他動詞本来の 一で自動詞と 形	下二段活用の 他動詞と結合 一で自動詞と 形
あさむ	あさむ	あさむ	あさむ	あさむ	あさむ	あさむ	あさむ
居						居	
あさまる	あさまる	あさまる	あさまる	あさまる	あさまる	あさまる	あさまる
ナ行ト リ轉ビ る者	ナ行ト リ轉ビ る者	ナ行ト リ轉ビ る者	ナ行ト リ轉ビ る者	ナ行ト リ轉ビ る者	ナ行ト リ轉ビ る者	下二段活用の 他動詞本来の 一で自動詞と 形	下二段活用の 他動詞と結合 一で自動詞と 形
あさぬ	あさぬ	あさぬ	あさぬ	あさぬ	あさぬ	あさぬ	あさぬ
重	列					重	列
あさまる	あさまる	あさまる	あさまる	あさまる	あさまる	あさまる	あさまる
ツラぬ	ツラぬ	ツラぬ	ツラぬ	ツラぬ	ツラぬ	ツラぬ	ツラぬ

問 下二段活の助動詞と結合する者は



答 こまはルレル、ルレとラ行下二段ノ活用を

助動詞として四段活用の他動詞の詞尾を才列の音一轉トルの助動詞を加へて自動をあらは

る者なりさてこまは最稀なる者としてむをふ

問 活用を變トて他動詞より轉ト来る者は

四段活用の他動詞を同行の下二段活用ニ變トて自動をあらはる者なり自動表の乙をみると

自動表乙

四段活用の他動詞 同行下二段活用ニ轉ぶる者

カ行	ク多ク	碎	クガク
活用	とく	解	とくる
の者	やく	焼	やくる
ラ行	きろ	截	きろい
活用	やぶる	破	やぶる
の者	わろ	割	わろい

問 通動の者は

答 本来の形を變ぜむして自他兩般ニ通トて用る者なりはるるく歩よるこみ喜わらふ笑ふく吹等の詞ニ於て人がはるるく小児がよるこぶ



君がわらふ 風がふくまどいふ時は自動をり

といへども 人が道をわらふ 小児が花をを

ろこぶ 君が彼をわらふ 風が衣をふくまど

いへば他動のをがふとをり

動詞の變畫とは

問 四段活用中二段活用下二段活用の者なりや

答 この活用一適合をざる者なりとを不規則の

者とを

問 四段活用の動詞とは

答 動詞の詞尾をアイウエの四列の音一變畫をる

者一してこと一カ行の活用ニ行の活用ニ行の

活用ハ行の活用マ行の活用ラ行の活用の六種

なり

問 カ行四段の活用は

答 詞尾をカキツケの四音一變畫して活用をる動

詞をり變畫圖の甲の第一欄内第一行をみよ

問 廿行四段の活用は

答 詞尾をサシスセの四音一變畫して活用をる動

詞をり變畫圖の甲の第一欄内第二行をみよ

問 々行四段の活用は

答 詞尾をタキツテの四音一變畫して活用をる動

詞をり變畫圖の甲の第一欄内第三行をみよ



問 ハ行四段の活用は

答 詞尾をハヒフへの四音一變畫して活用をる動

詞をり變畫圖の甲の第一欄内第四行をみよ

問 マ行四段の活用は

答 詞尾をマミムメの四音一變畫して活用をる動

詞をり變畫圖の甲の第一欄内第五行をみよ

問 ヲ行四段の活用は

答 詞尾をヲリルレの四音一變畫して活用をる動

詞をり變畫圖の甲の第一欄内第六行をみよ

問 中二段活用の動詞とは

答 動詞の詞尾をイウの二列の音一變畫をる者一

トてこまよカ行の活用タ行の活用ハ行の活用

マ行の活用ヤ行の活用ラ の活用の六種あり

問 カ行中二段の活用は

答 詞尾をキクの二音一變畫して活用をる動詞を

り變畫圖の甲の第二欄内第一行をみよ

問 タ行中二段の活用は

答 詞尾をチツの二音一變畫して活用をる動詞を

り變畫圖の甲の第二欄内第二行をみよ

問 ハ行中二段の活用は

答 詞尾をヒフの二音一變畫して活用をる動詞を

り變畫圖の甲の第二欄内第三行をみよ



問 マ行中二段の活用は

答 詞尾をミムノニ音ニ變畫して活用をる動詞を

リ變畫圖の甲の第二欄内第四行をミヨ

問 ヤ行中二段の活用は

答 詞尾をイユノニ音ニ變畫して活用をる動詞を

リ變畫圖の甲の第二欄内第五行をミヨ

問 ラ行中二段の活用は

答 詞尾をリルノニ音ニ變畫して活用をる動詞を

リ變畫圖の甲の第二欄内第六行をミヨ

問 下二段活用の動詞とは

答 動詞の詞尾をウエノニ列の音ニ變畫して活用

をる者ニしてこまニア行の活用カ行の活用サ

行の活用タ行の活用ナ行の活用ハ行の活用マ

行の活用ヤ行の活用ラ行の活用ワ行の活用の

十種あり

問 ア行下二段の活用は

答 詞尾をウエノニ音ニ變畫して活用をる動詞

をリ變畫圖の甲の第三欄内第一行をミヨ

問 カ行下二段の活用は

答 詞尾をクケノニ音ニ變畫して活用をる動詞

をリ變畫圖の甲の第三欄内第二行をミヨ

問 サ行下二段の活用は

答 詞尾をスセノニ音ニ變畫して活用をる動詞

をリ變畫圖の甲の第三欄内第三行をミヨ



答 詞尾を「スセ」の二音より變畫して活用を「ス」を動詞

たり變畫圖の甲の第三欄内第三行をみよ

問 夕行下二段の活用は

答 詞尾を「ツテ」の二音より變畫して活用を「ツ」を動詞

たり變畫圖の甲の第三欄第四行をみよ

問 ナ行下二段の活用は

答 詞尾を「ヌネ」の二音より變畫して活用を「ヌ」を動詞

たり變畫圖の甲の第三欄内第五行をみよ

問 ハ行下二段の活用は

答 詞尾を「フヘ」の二音より變畫して活用を「フ」を動詞

たり變畫圖の甲の第三欄内第六行をみよ

問 マ行下二段の活用は

答 詞尾を「ムメ」の二音より變畫して活用を「ム」を動詞

たり變畫圖の甲の第三欄内第七行をみよ

問 ヤ行下二段の活用は

答 詞尾を「ユエ」の二音より變畫して活用を「ユ」を動詞

たり變畫圖の甲の第三欄内第八行をみよ

問 ラ行下二段の活用は

答 詞尾を「ルレ」の二音より變畫して活用を「ル」を動詞

たり變畫圖の甲の第三欄内第九行をみよ

問 〇行下二段の活用は

答 詞尾を「ウエ」の二音より變畫して活用を「ウ」を動詞



なり變畫圖の甲の第三欄内第十行をみよ

變畫圖 甲

段(米) 用 第 轉 於 別 一 動 助 加 詞 へ ぎ 其 詞 たり せ

中	用	活	段	四		
おく	つる	をむ	らふ	うつ	たを	らく
起	釣	住	逢	撃	押	飽
おき	つら	をち	らば	うと	おさ	らか
			(米)			
おく	つき	をめ	らへ	うて	おせ	らけ
たくる	つる	をむ	らふ	うつ	たを	らく
おき	つり	をみ	らひ	うり	おし	らき

動 本然の作 第一轉  
動 未然の作 第二轉  
動 既然の作 第三轉  
名詞の前 第四轉  
動詞の前 第五轉

段	二	下	用	活	段	二
らふ	かぬ	をつ	やを	うく	う	こる
與	兼	捨	瘦	受	得	懲
らふ	かぬ	をて	やせ	うけ	え	こる
へ	かぬ	をて	やせ	うけ	え	こる
らふ	かぬ	をつ	やを	うく	う	こる
と	かぬ	をつ	やを	うく	う	こる
らふ	かぬ	をつ	やを	うく	う	こる
と	かぬ	をつ	やを	うく	う	こる
らふ	かぬ	をて	やせ	うけ	え	こる
へ	かぬ	をて	やせ	うけ	え	こる

日本書紀 卷二下 三十一



各轉	より	受く	助	動詞	副詞	後置	詞接	續詞	活用
と	と	ら	ら	べ	ば	か	か	中	ほむ きゆ かろ う
で	で	ぬ	ぬ	ん	ん	い	い	ん	ほめ きえ かき う
ば	ば								ほむ きゆ かろ う
を	を	が	が	ん	ん	で	で	り	ほむ きゆ かろ う
き	き	ぬ	ぬ	り	り	ん	ん	の	ほめ きえ かき う

問

活用の不規則なる動詞は

答

三段活用をる者二個變畫を受けざる者十四

問

个共十六詞は上ノ示めを所の規則ニ適せたる

答

三段活用をる者は

問

キクコ来と活用をる動詞とシスセ為と活用を

答

る動詞との二詞なり變畫圖の乙をみよ

問

變畫を受ざる動詞は

答

着、似、煮、乾、歎、見、射、鑄、蹴、へ、綜

問

居、率、ひ、き、ろ、帥、ち、ろ、用、等、の、十、四、詞、は、變、畫

答

を受けざる唯ラ行下二段ルと活用をる助動

問

詞と結合して其活用をらけたる者なり變畫圖

答

をを受けざる唯ラ行下二段ルと活用をる助動



のこをみよ

變畫圖乙

變	三段 活用 る者	動	本然の作	第一轉
ひる	くる	動	未然の作	第二轉
ひる	くる	動	已然の作	第三轉
ひる	くる	動	名詞の前	第四轉
ひる	くる	動	動詞の前	第五轉

畫	者	る	ど	け	受	を	ひる
ひる	ひき	る	る	い	い	み	ひる
兼	帥	率	居	鑄	射	見	兼
ひ	ひき	る	る	い	い	み	ひ
ひ	ひき	る	る	い	い	み	ひ
ひ	ひき	る	る	い	い	み	ひ
ひ	ひき	る	る	い	い	み	ひ
ひ	ひき	る	る	い	い	み	ひ

各轉より受くる助動詞副詞後置詞接續詞等



問 變畫圖の第一轉本然の作動といへるは

答 この活用1於ては現1動作をる所の形況をら  
らは一かつ詞も截まをわきて本語の體裁と  
のほりある者まをばこまを動詞の本然の詞と  
いひまと截断の詞といふを

問 第二轉未然の作動といへるは

答 ンメ等の助動詞を加へて其作動の初め2して  
いまが事の行をはまざる前1ゆらかトめ今よ  
り後まさ2斯く行をはる可1とかちるひは今  
よりまさ2其事を斯くの如くとり行ふ可1と  
る其作動のきざしをいひ初むる時1用る又

問 の事物のゆくさまをゆらかトめ推量して後つ

ひ1斯の如く来る可1といひ定むる時1用る  
まり其他ズヌジナル等の副詞1結合して否不  
のうちけしを示めを時1まと詞尾をこ、2と

問 第三轉は

答 バドドモの接續詞1結合して一事の作動既1  
畢る其作動2因りて後事を生むる時1前事既  
1過ぎて後事の現1来る可きを示さむとる  
其前後の中間1この接續詞を置きて前句より  
後句へ接續して前事の作動既1畢りとるを示



めを者を至多とへば 花さけバ人も訪ひきぬ  
秋来まども風いさど涼しからむ等の如し

問 第四轉は

答 動詞が名詞の前より来りて其後より在る所の名詞  
の作用をあらはさむとある時よりこの活用の詞  
とり名詞へつゞくるなり多とへば 野よりさく

花 書を學ぶ人等の如し

問 第五轉は

答 動詞が動詞の前より来るといへるは動詞が二個  
かさたりとる時より上の動詞をこの活用より取り  
て下の動詞へつゞくるなりもちみつくを用尽

ゆきかよふ 行通うけとる 受取等の如し  
詞より轉じて用る時もこの活用よりあるなり  
よろこひ悦を申を 抱い老を養ふ うれみ 恐

を棄つる等の如し

問 活用の中より往々ルレの字を加ふる者あるは何

不

答 四段活用のほかは悉皆其動詞の固有の活用  
於て十分ならざりて足らざる所あるを以てラ  
行下二段より活用をルレの助動詞を加へて其  
變畫を補ふ者よりして實は其活用をラ行より轉  
多る者と知る可し



問 四段活用の動詞はラ行の轉ぜざるや  
答 ラリルレ有とラ行四段の活用をる助動詞を加へてエ列の音とり悉くラ行の轉して再び四段の活用をる者と知る可し變畫圖の丙をみる

變畫圖 丙

第一轉 甲	第二轉	第三轉	第四轉	第五轉
おもへり 思	おもへら	おもへま	おもへる	おもひり
おもへる	おもへら	おもへま	おもへる	おもひり
おもへら	おもへま	おもへる	おもひり	おもひり
おもへま	おもへる	おもひり	おもひり	おもひり
おもへる	おもひり	おもひり	おもひり	おもひり

用をる	者	各轉	り受く	る助動	詞副詞	後置詞	接續詞
おもへり 思	をあり 住	か とも					
おもへる	をめる	つまら					
おもへら	をめら	つまら					
おもへま	をめま	つまら					
おもへる	をめる	つまら					
おもひり	をめり	つまら					

第一轉の體裁をなせり甲と参考して其詞を分別を可し



問 支那語の動詞を用ゐる時は、いかゞ活用をなす  
答 シスセ 為とサ行の三段の活用を助動詞を加へて其活用を助をく變畫は助動詞の變畫に隨ふ 記を 勉強を 記せん 勉強せん 記を

る 勉強をる 記を 勉強一等の如く變畫圖の乙と参考を可く  
助動詞とは

問 動詞の變畫に於て諸種の活用を悉く分ちて明らかにさし示めさんとをるゝ其詞尾の變畫をなすことわづかゝ二三四の間に出ざるを以て數般の活用を應むる能はざる其缺を補はんが為

め活用を助くる一種の動詞なりことを助動詞と云其類二あり

問 其一是  
答 獨立して意義をなす者なりをなすはち 有り

う得を為の三詞なり變畫圖の甲乙丙をみて詳し其活用を知り可く借この三詞は動詞の根元よりして凡百の作動に涉るを以て孰もこの動詞もこの意を含まざる者なり

問 其二是  
答 獨立して意義をなす能はざるをなす他の動詞と結合して作動の活用をなす者なり其類







さを令せさを令等の助動詞もこの類に屬せる可  
 い助動表の乙をみよ

助動表 甲

各轉より受くる諸種の詞は變畫圖の丙と同一	動詞	る	用を	二活	四段	ラ行	第一轉 甲
	めり	けり	あり	ちより	せり	る <sup>行ケリ 立テリ</sup>	第一轉 乙
	めろ	けろ	あり	ちろ	せろ	る	第二轉
	めり	けり	あり	ちり	せり	る	第三轉
	めり	けり	あり	ちり	せり	る	第四轉
	めり	けり	あり	ちり	せり	る	第五轉

助動表 乙

詞	助動	用の	段活	下二	ラ行	第一轉
サ行四 段活用 の助動 詞	せらる	さる	らる	る	る	第一轉
動カス 起コス 枯ラス	書カセ 落トセ 捨ラル	動カス 落トセ 捨ラル	開ラル 押サル	行カル 押サル	る	第二轉
さ	せらる	さる	らる	る	る	第三轉
せ	せらる	さる	らる	る	る	第四轉
さ	せらる	さる	らる	る	る	第五轉



各轉 参考	サ行	を	を	を	を
	下ニ	を	を	を	を
助動	用	を	を	を	を
	動	を	を	を	を
詞	開	を	を	を	を
	走	を	を	を	を
各轉 参考	サ行	を	を	を	を
	下ニ	を	を	を	を
助動	用	を	を	を	を
	動	を	を	を	を
詞	開	を	を	を	を
	走	を	を	を	を

問 現在時限を示る者とは

答 現今目前よりあらはるる所の作動を示る者なり

問 其詞二介わり

答 第一の者は

ツテツルツレとタ行下ニ段ニ活用する者より  
てををけち き、つ聞キツ いひつ言ヒツ等の

動詞ニ加はるる所のツとハる助動詞を

き、つ事、つひつる人、春け来つ、鶯をき

つ等の文に於て現今の景況をみる可し其變畫

は助動表の丙をみて知る

問 第二の者は

答 ナニヌネとナ行四段ニ活用する者とニヌと同

行中ニ段ニ活用する者とニヌとてををけち

たりぬ成リヌちるぬ散リヌさきぬ咲キヌ等の

如く動詞ニ結合する所のヌといへる助動詞を

り事なりぬ散りぬる紅葉さきぬる花等の

の文に於て即今其動作は畢り多きども其事物







問 第二の者は

答 ラム 行らひらん  
 ラムとマ行下二段活用を  
 用者として 行くらむ 行くらん 聞ク  
 ラン 行くらめ 行くらめ 聞くらめ 等の  
 如く動詞と結合して未来を示めを助動詞なり  
 諸この詞は未来の一層へおゝ至て疑はく其  
 事の作動を即今決定してはひ難くといへど  
 も終る斯の如くなりゆく可くとか取行ふ可  
 くとか推しはかりて未来の作動をいひつらば  
 を時工用る詞をり助動表の丙をみと  
 助動表 丙

第一轉	現在	助動	詞	過去助動詞	未來助動詞
第二轉	つ	ぬ	ぬ	き	むん
第三轉	て	なり	なり	け	め
第四轉	つ	ぬ	ぬ	い	むん
第五轉	て	ぬ	ぬ	。	。

言ヒテツ 言ヒテツ 言ヒテツ 言ヒテツ 言ヒテツ

問 動詞の法とは  
 答 動詞の文章工つらばるゝ全く同一の詞と雖



其精密のこまを分てば作動の各異の景況あり  
其景況のこまがひて逐一の確定の詞の體  
裁ありこまを動詞の法といふをり顕示法あり  
疑示法あり命令法あり

問 顕示法とは

動詞を以て示し多る動作状態等を各種の時限  
に從ひて直に説て其事情をあらはし示す者を  
り其時限の現在をる者は 花さく 鳥をく  
といひ過去の者をあらはしては 花さき、  
鳥をき、といひ未来の動作は 花さかむ  
鳥をかんといふが如き者みを顕示法をり配合

答

例圖をみると

問 疑示法とは

事情の動作をあらはす其命意の切實をらむ  
してあらはし示しが多き時疑ひを含みて言  
ををる用る者なり諸この法は動詞の「カヤ等  
の副詞を加へて作る可くをきはち 花はきの  
ふさき」か過去 今日さくか現在 花さかんか  
未来 かつちりや 現在 知る可からむ等の如く配  
合例圖をみると

問 命令法とは

人獣事物を論ぜむをべて已む對をる者を命令



をきき用る法なりと希求勸勵諫止等を示  
せりさて其命令希求勸勵諫止等をきき可き者  
はかきらむ眼前に存在せりとみるが故に時限  
は常に現在にあり 君行け 汝かへよ 雲は  
まよ 月出でよ等の如く其詞甲乙丙丁の四法  
あり

問 甲法は

四段活用の動詞の詞尾をエ列の音に取至て直  
ち命令詞とをきき者なり 花さけ 春來よ  
友訪へ 酒を飲め等の如く

問 乙法は

答 中二段活用の動詞の詞尾をイ列の音に取りて

命令詞とをきき者なり然るともこの詞は本来の  
まよにては命令の意をあらはせよといさよか  
缺くる所ありを以て中古よりかきらむをヨとい  
へる招呼の感詞を加へて其意を充ちむる者  
なり 起きよ 懲りと等の如く

問 丙法は

下二段活用の動詞の詞尾をエ列の音に取至て  
法の如くヨといへる招呼の感詞を加へて命令  
詞とをきき者なり 譽めよ 棄てよ等の如く

問 丁法は







まゝと半過去と名づく 花さきぬ 年とちぬ  
書を讀みはしめぬる時 この人の來ぬる時

等の如く現在を示す助動詞の第二三十一葉十と参考を可く

過去とは

動作をやく既往の事と屬し物かはり時うつりて目今現存せざる後よりそのかみの景況を志るゝてのいひあらはさんとある時は用る者ゝてキシと轉用をる助動詞を加へて其過ぎ去りし徴候を示す者なり 彼人は去年英國へゆき多りき 吾はこの春東京へ参りき 雪ふり

問 答

時 月おもしろかりし夜等の如く過去を示す

助動詞三十一葉左と参考を可く

第一未來とは

動詞ムと轉用をる助動詞を加へて今より後と為さんとある動作をあらわすかじめいひあらはす者なり 學校ムゆかむ 算術を生なばん 等の如く未來を示せる助動詞の第一三十一葉右と参考を可く

問 答

第二未來は

こゝには未來の一きはへるゝまで其作動の景況を確定しがよくこゝろとちき時ムいさゝか

問 答



疑いを含みていひ出づる時1用る者1して動詞の第一轉ムラムランラメと轉用たる助動詞を加ふる者なりをなはち吾はいつ故郷へ帰らるらん 彼人はいつ東京に至るらむ等の如し 未来を示せる助動詞の第二葉三十一と参考をべ

配合例圖

第 詞	四段 活用	詞の截斷たる者	顯示法	名詞と連續たる者	疑示法
おきつ	おきつ	おきつる人	おきつる人	おきつる人	おきつるか
おきつ	おきつ	おきつる人	おきつる人	おきつる人	おきつるか
おきつ	おきつ	おきつる人	おきつる人	おきつる人	おきつるか

在 現 二 第				在 現 一			
用詞	段活	下二	詞	用詞	段活	下二	中二
ほめぬ	おきぬ	おきぬ	おきぬ	ほめつ	ほむ	おきつ	おくる
ほめぬ人	おきぬる人	おきぬる人	おきぬる家	ほめつる人	ほむる人	おきつる人	おくる人
ほめぬるか	おきぬるか	おきぬるか	おきぬるか	ほめつるか	ほむるか	おきつるか	おくるるか
ほめぬるや	おきぬるや	おきぬるや	おきぬるや	ほめつるや	ほむるや	おきつるや	おくるるや

日本書紀 卷二



来 一 第				去 過			
用詞	段活	中二	詞活用	用詞	段活	中二	詞活用
おきめ	おきむ	おきむ	おきむ	おき	おき	おき	おき

来 未 二 第				来			
用詞	段活	中二	詞活用	用詞	段活	中二	詞活用
おきめ	おきむ	おきむ	おきむ	おき	おき	おき	おき

第二来はカヤ等の副詞を加へて直ち

日本文典 卷二 三



問 集合動詞とは

答 二个以上の詞の結合して一個の動詞の如きを

まろ者なり然して其最下ニ位たる詞はかきら

ぬ動詞ニかゝまり大畧方ちて三種をま

問 其一は

答 動詞の互ニ結合してまろ者なりまをけち

かへまろみる 顧るもあつ 沸騰もえあつ 燃立ッかき

まろ筆記もてらまを 持餘為もちろる 用等の如

問 其二は

答 名詞と結合してまろ者なり こゝろみる 試

うちづく 點頭とぎを 鎖くもあつ 雲立ッ等の如

問 其三は

答 々々チウチトリサシヒキアヒ等の字を動詞の

前ニ置きて作動の意を強むる者なりまをびく

靡多ばいろ 走るちわゆる 別うちまつる 棄たり

みどを 亂さくおく 置ひきろる 率わひなる 成等

問 他

答 他の詞より轉じ来る動詞は

名詞より来る者なり 形容詞より来る者なり 副

詞より来る者なり



問 名詞より轉じ來たる者は

答 おとちぶる 大入ブル をかきぶる 如兜ブル した

ふ 擔ナフ つみぢふ 罰ナフ やどる 宿ル 等たり

問 形容詞より轉じ來る者は

答 白からむ 赤らむ きはむ 黄バム 多かぶる 高ブル

よぎけふ 賑ハフ いらむ 紫ス つよむる 強ムル 等

問 副詞より轉じ來る者は

答 ぬむる 弱ムル 等たり 宜ナフ いたむ 否 志か

り 然ル 等たり 今メク うべぢふ いたむ 否 志か

副詞より轉じ來る者は

問 動詞ありはけいある作動ありはけい形容詞あり

答 けいある作動ありはけい形容詞あり

て常し動詞ありはけい形容詞の側らる副詞あり

りなきけいありはけい形容詞の側らる副詞あり

學生あり 明日共し 學事を談どん 君かたらた

來ま等の如くさてこの詞は本來の詞を直ち

用る者あり後置詞ありはけい接續詞を加へて用

る者あり詞尾の變畫をもつ者あり他の詞より

轉じ來る者あり集合して來る者ありすと各異



の意義よりてこの詞を數種に分かつ

問 本来の詞を直ち用る者は

答 不<sub>レ</sub>なるを必<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>ざる甚<sub>レ</sub>多<sub>ク</sub>唯<sub>レ</sub>のみ而已<sub>ニ</sub>をこぶ

る類も<sub>レ</sub>若<sub>ク</sub>も<sub>レ</sub>皆<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>專<sub>レ</sub>け<sub>レ</sub>分<sub>レ</sub>蓋<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>く

暫時<sub>ニ</sub>や<sub>レ</sub>漸<sub>ニ</sub>い<sub>レ</sub>や<sub>レ</sub>ど<sub>レ</sub>未<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>や<sub>レ</sub>今<sub>ノ</sub>ち<sub>ニ</sub>後<sub>ニ</sub>等<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>

問 後置詞に<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>接續詞を加へて用る者とは

答 後置詞を加ふる者は<sub>レ</sub>向<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>多<sub>ク</sub>新<sub>ニ</sub>を<sub>レ</sub>で<sub>レ</sub>既

=<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>か<sub>レ</sub>頓<sub>ニ</sub>つ<sub>レ</sub>ひ<sub>レ</sub>遠<sub>ニ</sub>ひ<sub>レ</sub>か<sub>レ</sub>竊<sub>ニ</sub>も<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>

くは<sub>レ</sub>若<sub>ク</sub>ハ<sub>レ</sub>か<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>ど<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>同<sub>ク</sub>も<sub>レ</sub>志<sub>レ</sub>ば<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>須<sub>レ</sub>臾

モ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>や<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>くり<sub>レ</sub>苟<sub>モ</sub>ち<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>ぞ<sub>レ</sub>何<sub>ゾ</sub>い<sub>レ</sub>か<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>如何<sub>ゾ</sub>

い<sub>レ</sub>づ<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>馬<sub>ゾ</sub>等<sub>ニ</sub>たり<sub>レ</sub>さて<sub>レ</sub>接續詞を加ふる者

は<sub>レ</sub>か<sub>レ</sub>つ<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>嘗<sub>テ</sub>向<sub>レ</sub>へ<sub>テ</sub>敢<sub>テ</sub>ま<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>め<sub>テ</sub>極<sub>メ</sub>テ<sub>レ</sub>か

は<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>豫<sub>テ</sub>は<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>め<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>初<sub>テ</sub>も<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>固<sub>ヨ</sub>リ<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>よ

り<sub>レ</sub>馬<sub>ヨ</sub>リ<sub>レ</sub>等<sub>ニ</sub>たり

問 詞尾の變畫をもつ者とは

答 一は形容詞の詞尾と同じ者一は否不のうち

け<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>を示<sub>レ</sub>す者<sub>ニ</sub>して各甲乙の二種に分つ

問 第一類の甲種は

答 ク<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>キ<sub>レ</sub>ケ<sub>レ</sub>レ<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>轉<sub>レ</sub>ぞ<sub>レ</sub>ち<sub>レ</sub>者<sub>ニ</sub>なり<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>や<sub>レ</sub>早<sub>シ</sub>向<sub>レ</sub>や

政<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>徧<sub>シ</sub>か<sub>レ</sub>多<sub>ク</sub>難<sub>シ</sub>ち<sub>レ</sub>多<sub>ク</sub>し<sub>レ</sub>全<sub>シ</sub>ど<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>如<sub>シ</sub>多

や<sub>レ</sub>多<sub>ク</sub>容易<sub>シ</sub>等<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>副詞變畫圖第一を<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>よ

問 第一類の乙種は

答 第一類の乙種は

問 第一類の乙種は

答 第一類の乙種は

問 第一類の乙種は

答 第一類の乙種は

問 第一類の乙種は

答 第一類の乙種は



答 シシクシキシケレと轉用なる者あり  
同シ ムシキ空シ いさく久シよろし宜シ 等の如

副詞變畫圖の第一をみよ  
副詞變畫圖 第一

種 乙	種 甲		第一轉	第二轉	第三轉	第四轉
志く 久シク	無ク 如ク	動詞形容詞の 前よりなる者	志	志	志けき	志き
志	志	名詞動詞形容 詞の後よりなる者 て截断なる者	志	志	志けき	志き
志	志	コソの後置詞 を受け之を結 ひて截断なる者	志	志	志けき	志き
志	志	名詞の前より りて直に名詞 と結合なる者	志	志	志けき	志き

問 第二類の甲種は  
答 志とネと轉用してうちけくを示す者なり  
志を見志きかた聞カズ等の如く副詞變畫圖の

問 第二類の乙種は

答 ラ行四段に轉用するガルトツヘろうちけくの  
副詞なり 志ざろ見ザル 志かざろ 聞カザル 等  
の如く副詞變畫圖の第二をみよ

副詞變畫圖 第二

第一轉 第二轉 第三轉 第四轉 第五轉



種 乙	種 甲	本然の詞より て截断する者
ざろ 見ザル 聞ザル	む 見ズ 聞カズ	未然の詞
ざら 見ザラ 聞ザラ	む	既然の詞の 後置詞を受 けて截断する者
ざら	ぬ	名詞の前より 来る者
ざり	だ	動詞の前より 来る者

問 他詞より轉じ来る者は  
答 名詞形容詞代名詞動詞等より轉じ来りて副詞  
と成る者あり  
問 名詞より来る者は

答 ひツル日々ニときぐくニ時々ニくちづからロ  
ツカラてづから手ツカラことごとく盡ク等を  
問 形容詞より来る者は  
答 おほいニ大イニおほより凡よく能クひとへニ  
偏ニわづかニ僅ニはるこく遙々等なり  
問 代名詞より来る者は  
答 りもこく抑こもこく交等ニいて抑は其モ其モ  
の集合してきりある者にて物をつよくさし示  
して抑揚の義をふくみ交は是モ是モの詞の集  
合してきりある者にて許多の物を呼びらつめ



てこまをさし示義をふくみある副詞なり

問 動詞より来る者は

答

はじめ初らげて勝テかへりて却テもちまち忽

いありて至テすたくと益 殆がはくは願クハ等

なり

問

集合して来る者とは

答

二個以上の詞の結合して副詞と来る者なりこ

まゝ副詞の互ゝ集合しあると他の詞と結合し

あるとの二種あり

問

副詞の互ゝ集合しある者は

答

ほとくと殆やまゝと儘 何れは能ハズ 未かた

如カズ せんがかくのどとくはきはがいきや 何

ゾ斯ノ如ク甚シキヤ 等を

問

他の詞と結合しある者は

答

其時ゝ於て 何らざるを得んや 何の幸かこ

まゝ若かん等なり

問

意義よりて類を分つとは

答

位地時刻反復順序分量状態決定否不種分併合

推量疑問解説の十三種を

問

位地副詞は

答

こゝゝ 茲ニかゝこゝ 彼所ニよろゝ 他所ニやへ

ゝ前ニありへゝ 後方ニをちこちゝ 各所ゝ 所か



問 時刻副詞は  
ユ外ニ等たり

答 さき前のち後いず今きのふ昨日けふ今日  
明日ことし今年いつか何時カときし時ニかつ

て曾テたでし既ニたみやかし速ニ多ちやちし

忽ニひさしく久シク志ばらく暫時ひし日ニと

いし年ニつきし月ニ等たり

問 反復副詞は

答 いくるびも幾回モふも、び再度多びごとし度

ゴトニ多び、び度々志ば、び屢々ときど、時

々をり、び折々志き里し連ニ等たり

問 順序副詞は  
等たり

答 はじめ始をけり終まづ先ツつぎし次ニ等たり

問 分量副詞は

答 おほく多クをくちく少クわづおろ 僅ニいさ、

お少量ち多く全くおほいし大イニちこし少

シモをこぶる頗ル等たり

問 状態副詞は

答 つよげし強ゲニよわげし弱ゲニをささげし切

ゲニおもげし重ゲニかるげし軽ゲニ等たり

問 決定副詞は

答 かならむ必まはめて極メテうべ 正ニ



さかめて定て等たり

問 否不副詞は

を無きく無くをわき多かれ  
いも否を不ざる不  
等たり

問 種分副詞は

あま唯のみ而已こと一殊ニばかり  
わぎり

問 併合副詞は

て限リテおきて別キテこと異ナリ等たり

問 どれ共ニ

をらび一并ニをべて凡テいづれ  
何レモみき皆ことよく悉くうげて勝ゲテ  
お

問 何を同ジク

等たり

問 推量副詞は

けり蓋うもがらくは疑フラク不  
は恐ラクハ等たり

問 疑問副詞は

か歟や乎いか如何ニ  
う一豈をんぞ何ゾ  
クユダ馬ゾ等たり

問 解説副詞は

ゆゑ一故ニかろがゆゑ一故ニ  
まかまば然レハ  
ままけち即等たり

後置詞

後置詞



問 後置詞とは

答 名詞形容詞代名詞動詞副詞等の後置きて其

本詞と其後に来る所の詞との中間の関節と

りて其系累の語所與奪等をさし示す者なり一

こゝを指示言と名づけ文の綴屬に於て最緊

用を有る詞なり譬は 人は紙の文字をかくとい

へる文に於てハニヲ等の詞なり其最要用なる

者を詞義の輕重より多かひて三種に分つ

第一種の者け

問 系累を示す所の意平易にして後に来る動詞助

動詞等をして本然の活用をまけち第一轉を以

て截断をさむる者なり其詞はハモノニヘヲヨ

リマデ等なり其後に来る動詞の轉化は照應圖

の第一行をみると

ハとは

問 一物を衆々の物のうちより取わけて文主と立

て、さし示す所の詞なり 春は暖なり 秋は

ひや、かたり 人は来り 我は往く等の如し

モとは

問 二物以上の者をさしへ擧げて文主としてさし

示す所の詞なり 花は紅葉も紅なり 舜も人

なり我も人なり等の如し



問 ノとは

答 二の名詞の間より至て其系累を示す時上より

三所の名詞が形容の意をもつことを示す者と

物品の持主を示す者との二義なり 石の橋

絹の衣 天神の祠 人麻呂の歌等の如し

問 ニとは

答 位地人物時限等をさし示して文主の資用より供

えり所の者を與ふる時其系累をあらはす者を

り 花は庭よりさく 蝶は花より舞ふ 人は後

より来らむ 吾は人より問はん等の如し

問 へとは

答 後來の時限を期して至り可き位地をあらはす

めさし示していひ出る時より用る詞なり 来月

は東京へ行かん 此所へ彼者を置かむ等の如

し

問 ヲとは

答 文主の要する物品を資用をすることかあらひい

役使をすることかをあらはす時より其物品の後より

置きて其次より来る動詞の系累を定むるなり

人文主が書物品を讀む動詞 農夫文主が鋤物

品を持つ動詞等の如し

問 ヨリとは



答 與へらるゝと奪はるゝとの反對の二義を別ち

て用ゑるとも畢竟は主客を論じむらるゝ一所より

他の一所も及ぼすことの一義なり 朋らり遠

方より來る 百里與は市をりらげらるゝ等は與

へらるゝ義なり 山上をり臨む 江戸より行

く等は奪はるゝなり

問 マデとは

答 彼所より此所へ及び來る義にて物を引受くる

意なり 大阪まで來る 東京より京都まで百

四十餘里等は其本義なりと轉じて用ゑる者は

花をみちまで雪ふりまけり 雨ときくまで

木葉ちりけり等をり

問 第二種の者は

答 系累を示す所の意稍重くしてこの詞の後へ來

る動詞助動詞等をりて第一轉の乙らるゝひは第

四轉を以て截斷せしむる者なりて照應圖の第

二行の如く其詞はゾノナンカヤ等をり

問 ゴとは

答 其義ハと同トくして指示の意稍重き者をり

春が來る 氷が解くる 秋風が吹く 雪がふ

りける等をり

問 ノとは



答 〇と同ドくして指示の意のさ、か軽し第一種  
のノと異なり 雁の来をける 春風の吹く等

問 ナンとは

答 其義〇近くして口調をゆるめてひ出る時  
用る詞をり 雲かとのみなんおぼえける  
時ユきんらへるをよるこびける等の如し

問 ガとは

答 文主を確定して其系累をよりかりさし示を詞  
をり 君が来ませる 月がつつる 世が治ま  
る等の如し

問

答 ヤとは動詞の辭章をよりかひは物を問かくる意を

以て文主をならはし出を詞よりて疑問用る  
副詞招呼用る感詞のヤと其原は同ド詞の各  
種に轉ト多る者なり 人やみる 時雨や来つ  
る等の如し

問 第三種の者は

答 指示をる所の義最重き者よりて文主をきび  
く取り定めて示を詞よりてをきはちコソとい  
へる後置詞をり 君をこそ待て 身をこそ遠  
くへおてつと等の如し其後に来る動詞の轉化



は照應圖の第三行の如し

照應圖

第一行	第一種の後置詞 より系る者	第一轉して結ぶ	變畫圖の甲乙1 属とる動詞及助 動表の乙丙1属 とる助動詞
第二行	第二種の後置詞 より系る者	第四轉して結ぶ	變畫圖の丙1属 とる動詞及助動 表の甲1属とる 助動詞
第三行	第三種の後置詞 より系る者	第三轉して結ぶ	形容詞變畫圖及 副詞變畫圖1属 とる形容詞副詞

接續詞

問 接續詞とは  
答 詞句を連續して篇章をなす所の詞としてを

問 答  
はチハドテバ等の五をりすを集合の者なり  
トモトハドモシカドモニテシテトニシテト  
シテシカシテテバナバアラバナラバアレバナ  
レバシカバマシカバ等其數をば多し

問 答  
トは  
名詞にらるひは動詞の第一轉ををりち截断セる  
詞を受けて下の詞へ連合せしむる者なり其名  
詞の下にらる者は 石と金とを集む 人と語  
る等たりすと動詞の下にらる者は 東京へゆ  
くといふ入らり ますけへかへらむとたり時  
等の如し



問 テは

答 動詞の第五轉を受けて上の動作を下文へ及ぼ  
す意を以て接続せしむる詞を至 行きて見む  
學びて時よこを習ふ等の如し

問 デは

答 動詞の第二轉を受け否不のちけしを示し下  
文へ及ぼして接続せしむる詞をり 行かで止  
る 知らで過る等の如し

問 バは

答 未来と過去との二種ありて其未来を示る者は  
動詞の第二轉を受けて下文へ接続せしむる者

たり 人來らば事を談ぞん 道のきりかをら

ば身をさすらむ等の如し 過去のを示る者は

動詞の第三轉を受けて下文へ接続せしむる者

たり 人來まば其事を談ぞ 道のきりかをら

ば身をさする等の如し

問 トモは

答 動詞の第一轉を受けて未来よりして反對の義を  
含みて下文へ接続せしむる詞をり 彼はは才  
短し學ぶと其業を成りがふからむ 彼はは

其心多し悪しきふと動かざる可し等の

如し



問 ドモは

答 動詞の第三轉を受け、過去にして反對の義を  
含みて下文へ接續せしむる詞にして「ドモ異を  
ること」といふ。彼まは才短く學べども其業を  
ざりき。彼まは其心多ぶる惡いさうへども動  
かざりき等の如し。

問 シカドモは

答 動詞の第五轉を受けて下文へ接續せしむる反對  
の意を示すこと「ドモ」同「ドク」にて過去を示す  
こと「ドモ」より強く「京都へ行き」かども嵐山  
へは行かざりき。友を尋ね「オドも其人」

問 トハは

答 何れも物を入る訊問をなすか何れもひは説明をなす時  
か、其名詞の下に置きて動詞の第一轉の截断と  
る詞の下に置きて下文をひき起す詞なり  
人の道とは何ぞ。善とは正直なり等の如し。

問 ニテは

答 人品位地時刻等をさし示す後置詞のニテの  
字を加へて接續せしむる詞なり。東山にて何  
はむ。家を作るは大工にて庭を造るは植木屋  
ぢり等の如し。多ニテモといふ詞なりニテと



何、同一 今日よても明日よても来り多しへ  
筆よても墨よてもぬし多しへ等の如し

トテは

名詞のり多しひは截断せる動詞を受けて下文へ接  
續せしむる詞なり 稻荷神社とて貴き神のち  
しとけきは 故郷へ帰るとて道よて等の如  
し

問

答

シテは

シスセ為と活用をる助動詞とテの接續詞と集  
合しある者よて副詞のり多しひは後置詞接續詞等  
を受けて下文へ續くる詞なり 多して だし

問

答

て として 志かして等の如し

テバは

問 動詞の第五轉を受けて下文へ接續をる詞よて  
てバよ同くして其意つよく後日を推量りて議  
定をる意を含めり譬へば 見ては 聞てば  
とへば 見ば 聞かばといはむより其意つ  
よく聞ゆるより

ナバは

問 動詞の第五轉を受くる詞よして其意テバよ同  
くして稍からく 見なば 聞なば等の如し前  
條と参考をべし

答



問 アラバは

答 名詞を受けて接続をる者よりして将来を推量して其事をききむとをる意をふくめり 書らば買けむ 刀らば賣き等の如し

問 ナラバは

答 後置詞のニとアラバとの集合よりなり多者よりして名詞を受けて接続をることアラバより同くして其意いさゝか異なり 人らば問はしものを 玉らば行きて拾はむ等の如し

問 アレバは

答 名詞を受け既然を示して下文へ接続をる詞を

問 ナレバは

答 名詞を受けて接続をる詞よりして其意アレバより

問 シカバは

答 動詞の第五轉を受け過去を示して下文へ接続をる詞より

問 親友の訪来し

答 遠路より帰るし

如し



問 マシカバは

答 動詞の第二轉を受け過去に於て為し得べき事

を為さざ心をしてこして過ぎ来つる意を示して

下文へ接続する詞なり 驚をきかやいかば聞

かる可き事よききて聞かざりき 梅か枝を折

らむいかば折らる可き時をきこり等の如し

まよ二段活用の詞に於てはナの字を加へてナ

マシカバといへり 落ちまよいかば 絶えまよ

いかば等の如し

感詞

問 感詞とは

答 發情に感して覺えを發する所の聲にして詞に

意義なく唯悲喜驚歎の情況を強く示る者なり

て章句の首尾よりらはる詞なり 何と云

しや 嗚呼喜哉 おろろ可きかな 可恐哉 等の如し

ま多句中に置くことなり 長々一夜を獨る

寝むといへるか如し 偕其發情に從ひて各呼聲

を異し大畧分ちて十一種となを然して諸物

の音響鳥獸の鳴聲を摸する詞も亦こまに属せ

問 第一種は



答 歡喜の感詞をり  
等の如し  
ア、  
ア、  
オ、  
ヤレ

問 第二種は  
悲哀の感詞より其發聲歡喜の感詞より同く  
てこまを文字より寫せば異なること無しといへど  
も實境の發音に至りては大に其感動を分別を  
る所あり可し

問 第三種は  
驚歎の感詞  
コハコハ  
コレハコレハ  
サテ  
ハヤ等たり

問 第四種は  
賤惡の感詞をり  
エイ  
ヤオレ  
ウ、等の如し

問 第五種は  
鎮止の感詞をり  
マ、  
シ、  
コレ等の如し

問 第六種は  
勸勵の感詞をり  
イガ  
サ、  
イカニ等の如し

問 第七種は  
希望の感詞をり  
モカナ  
ナニトソ等の如し

問 第八種は  
發笑の感詞をり  
カ、  
ハ、  
ホ、等の如し



問 第九種は

答 哭泣の感詞をり

ヨ、 オ、 ヌ、 等の如し

問 第十種は

答 招呼の感詞をり

ヨ ヤ ナウ コレ モシ

等の如し

問 第十一種は

答 唯諾の感詞をり

ウ ウベ ハイ アイ等の

如し

問 諸物の音響とは

答 カン 金聲  
ドン 革聲  
カチ 木聲  
コチ 石聲  
等の類を

いふをり

問 鳥獸の鳴聲とは

答 イ 馬聲  
ア 鴉聲  
カリ 雁聲  
ネヨ 猫聲  
ブ 蜂聲  
等の類

をいふをり



東浪平治郎藏書

小學用 日本文典卷二下終

Tamaya

明治十年二月十三日版權免許

兵庫縣士族

春山弟彦

大阪府下茅壹大區二小區南新町  
壹丁目九番地

大阪府平民

淺井吉兵衛

茅壹大區七小區唐物町四丁目  
三拾四番地

出版人



